



TITLE:

京大広報 No. 182

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 182. 京大広報 1979, 182: 973-980

ISSUE DATE:

1979-09-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209506>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 182

京都大学広報委員会



国立七大学総合体育大会で活躍する本学女子バレーボール部（手前側・本学総合体育館において）

— 関連記事本文2ページ —

目 次

岡本総長韓国を訪ねる……………2	人文科学研究所夏期公開講座……………5
学生部長の交替……………2	東南アジア・セミナー……………5
第18回国立七大学総合体育大会の開催……………2	数学入門公開講座……………6
1979年度国際大学交流セミナー……………3	公開講座 高等学校教員のための現代数学展望……………6
＜随想＞	＜紹介＞
追 憶 記……………名誉教授 松田長三郎…4	農学部附属牧場……………6
農業簿記・農業経営講習会……………5	計報・日誌……………7

＜大学の動き＞

岡本総長韓国を訪ねる

岡本道雄総長は、さる7月31日から、学術・教育上の交流に関する意見交換および高等教育機関の実情視察のため韓国（大韓民国）を訪れ、予定どおりの旅程を経て、8月5日帰学した。

今回の訪問は、徐 燦珪慶北大学校総長の招きによるもので、主な訪問先は慶北大学校とソウル大学校（高 柄翊総長）であった。

岡本総長はこの訪問期間中に、両大学総長ほか大学関係者との懇談をはじめ、両大学構内諸施設の視察、さらに大邱とソウルでは、現地在住の本学出身者による「京大同窓会」主催のレセプションに出席した。

学生部長の交替

沢田敏男学生部長は、8月1日辞任され、その後任として、翠川 修教授（医学部病理学第一講座担当）が同日付けで任命された。

任期は、昭和55年7月31日までである。

第18回国立七大学総合体育大会の開催

このたび国立七大学総合体育大会が京都大学体育会の主管で京都において開催され、さる7月9日から約30日間、真夏の陽光の下に各大学の選手団および関係者約5,000人を迎え、23競技種目にわたり、それぞれ熱戦がくりひろげられた。

本体育大会は、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学

の7大学により構成され、毎年各大学輪番制で開催しているもので、昭和37年に第1回を北海道大学で開催以来、今年で第18回目を迎えた。国立大学の中でも技量のレベルが伯仲した7大学が集い、日頃から鍛えた力量を発揮する大会であるだけに各大学とも榮譽をかけて競い合った。

その結果、本学体育会は、全種目中10種目を制覇し、念願の総合優勝を飾ることができた。

なお、各大学の種目別の戦績は次のとおりである。

種 目 \ 大学名	北海道大	東北大	東京大	名古屋大	京 都 大	大阪大	九州大
アイスホッケー	4	5	2	3	6	1	7
空 手	3	2	6	7	①	4	5
弓 道	1	2	7	6	5	4	3
剣 道	4	7	1	5	2	3	6
航 空	／	2	3	5	①	4	6
硬式庭球（男）	5	2	5	3	3	1	5
硬式庭球（女）	5	3	／	1	2	5	3
硬 式 野 球	（雨 天 中 止）						
ゴ ル フ	3	7	1	2	4	5	6
自 動 車	／	4	3	5	①	6	2
柔 道	1	5	6	2	3	6	3
準 硬 式 野 球	／	4	1	3	5	6	2
少 林 寺 拳 法	6	5	3	7	2	4	1
水 泳	7	6	5	1	2	4	3
卓 球（男）	7	1	5	4	2	3	6
卓 球（女）	5	3	6	2	①	4	7
軟式庭球（男）	7	1	4	6	3	2	5
軟式庭球（女）	3	7	5	1	6	2	4
馬 術	3	4	2	6	①	／	5
バスケットボール（男）	5	6	1	3	2	7	4
バスケットボール（女）	／	2	4	5	6	3	1



バドミントン(男)	4	3	7	6	①	2	5
バドミントン(女)	6	2	7	5	①	3	4
バレーボール(男)	3	2	6	1	4	5	7
バレーボール(女)	5	4	7	3	①	6	2
ハンドボール	3	4	6	5	2	1	7
ヨ ッ ト	7	2	4	6	①	3	5
陸 上 競 技	5	4	1	6	2	3	7
陸上ホッケー	4	／	5	／	①	2	3
総 合 得 点	85.5	119.5	110.5	116	167	116	95.5
総 合 順 位	7	2	5	3	1	3	6

1979年度国際大学交流セミナー

本学と日本国際教育協会共催の本年度の国際大学交流セミナーが8月26日から9月7日まで13日間、主として本学ならびに京大会館の施設を利用して行なわれた。

今回は、オーストラリアの大学（全部国立大学で私立はない）のうち、日本語および日本学の講座をおいている14大学の中から2校—クインズランド大学、オーストラリア国立大学—を選び、日本語のできる学部学生を、前者の大学から6名、後者の大学から5名の計11名と、引率教官1名（両大学の話し合いの結果、クインズランド大学の日本語学の助教授 Fujiko Chamberlain）を招致した。

これに対して本学からE. S. S. と留学生友会の学部学生延27名が参加した。

このセミナーの目的は、オーストラリアの大学から本学に学生を招いて、日本の社会・文化・教育・歴史等の事情に関するセミナーを開き、日本



に関する知識・理解を深めてもらうと共に、日本人学生との交流を高めることである。

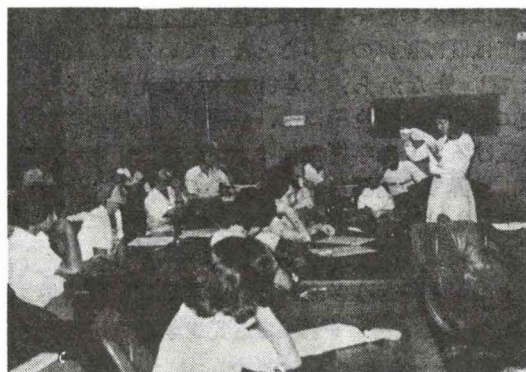
そのためセミナーの日程もこれに合うように計画され、講義として人文科学研究所上田 篤客員教授の「日本人の文化と住まい」、法学部高坂正堯教授の「日本の政治」、京都国立博物館林屋辰三郎館長の「京都の歴史と文化」、経済学部中村 哲教授の「日本の近代化と産業発展」、教育学部小林哲也教授の「日本の学校と大学」が行なわれた。

また、見学として、学内研究施設では工学部情報工学教室等、工場見学では松下電器茨木工場（TV）、ダイハツ工業本社工場（車の組立）、サントリー山崎工場（ウイスキー）と桂工場（ビール）等、また社寺見学では三十三間堂、清水寺、秋篠寺、薬師寺等を回った。

本学学生との懇談会も設けられ、そのテーマについては両国の学生が相談の上決めて行なわれた。

特にこのセミナーの特徴をあげると、一つは使用言語を原則として日本語にしたことであり、講義もすべて日本語を使い、補助的に英語を使った。第二は、期間中の宿泊のうち、6泊を日本人家庭に滞在したことである。この homestay は彼等が日本の家庭生活ならびに日本人と直接ふれることによって、よりよく日本人を理解してもらうためであつた。これは非常に好評で9月4日の京都でのサヨナラパーティでは、homestay の家族の方々と涙を流し、別れを惜しんだケースも多々見られた。

9月5日からセミナーの会場を東京に移し、東京大学と日本国際教育協会を訪問、東京在住のオーストラリア留学生との懇談会を2回開いた。またオーストラリア大使館を表敬訪問し、懇談した。そして9月7日夜、全員成田空港を発ち無事帰国した。（学生部）



<部局の動き>

公開講座等

農業簿記・農業経営講習会

農学部農業簿記研究施設では、さる8月1日から6日までの間、農学部講義室において公開講座「第43回農業簿記・農業経営講習会」を開催した。

この講習会は、農業簿記とそれに基づく農業経営の分析・診断・計画に関する理論と実務の普及をねらいとしたものである。講習には、農業改良普及員、高校教員、府県・各種団体職員、農家など、全国各地から約140名が参加し、連日午前9時から午後5時まで熱心に受講した。

講義科目、講師は次のとおりである。

農家経済簿記	菊地泰次, 桂 利夫
農業経営複式簿記	頼 平, 阿部亮耳
農業投資および資金の計画・管理・分析	頼 平, 亀谷 暎
農業経営および地域農業の診断・分析・計画	上村恵一, 西村博行
熊谷 宏, 宮崎 猛	
共通講義: わが国畜産の特異性と将来の方向	川島良治
	(農学部)

人文科学研究所夏期公開講座

人文科学研究所では恒例の夏期講座を8月1日から3日間、分館(左京区北白川)において開催した。

この講座は、当研究所に日本部、東洋部、西洋部の三部ができてのち、毎年の夏に開催されており、本年は30年目になる。今年の共通テーマは「宗教と社会」であり、神道、道教、仏教、キリスト教などを含む諸民族の宗教現象の分析を試みた。連日の猛暑をおして、毎日約130名の受講者があった。

演題、講師は次のとおりである。

琉球の宗教儀礼とそのシンボリズム	松井 健
イエスをめぐる神話的標識と性について	谷 泰
維新変革と神祇官の復興	羽賀祥二
イギリス人のみた幕末日本の宗教	横山俊夫
インド・チベット仏教学序説	御牧克己
鬼道と神道と真道	福永光司
	(人文科学研究所)

東南アジア・セミナー

東南アジア研究センターでは、さる8月1日から16日までの間(土、日を除く)、同センター教室において「昭和54年度東南アジア・セミナー」を開催した。

このセミナーは東南アジア地域における自然、文化、社会について総合的に概説し、専門的研究に必要な基礎知識を与えようとするものであり、セミナーには広く各大学の大学院学生のほか、学部学生や研究者、および同地域の研究を専門とする人々など24名が参加し、連日午前9時から午後4時30分まで受講した。

なお、講義題目、講師は次のとおりである。

〔言語と歴史〕

東南アジアの言語		三谷 恭之
東南アジアの歴史 総論		石井 米雄
〃 タイ		石井 米雄
〃 ベトナム(Ⅰ)		桜井由躬雄
〃 ベトナム(Ⅱ)		桜井由躬雄
東南アジアの宗教 仏教		石井 米雄
〃 イスラーム		坪内 良博

〔自然と農業〕

東南アジアの自然景観	高谷 好一
森と焼畑	山田 勇
モンスーン	安成 哲三
畑作と稲作	福井 捷朗
稲作の発達	田中 耕司
稲作農業の水利用	海田 能宏
気候変動と湿潤熱帯の農業	福井 捷朗
国際河川の開発(メコンの自然・農業・プロジェクト)	海田 能宏

〔政治と経済〕

国民形成の構造	土屋 健治
政治文化の特質	矢野 暢
国際関係の展開	山影 進
農業発展と食糧問題	西村 博行
工業化と貿易	安場 保吉
生活水準と所得分配	市村 真一
外資の役割	吉原久仁夫
人口と都市化	小林 和正

〔民族と文化〕

東南アジアの民族と文化 総論	前田 成文
----------------	-------

ケーススタディー (I) マレー 坪内 良博
 " (II) プギス 前田 成文
 " (III) ミナンカバウ

加藤 剛
 比較と展望 (I) 前田 成文
 " (II) 加藤 剛
 (東南アジア研究センター)

数学入門公開講座

数理解析研究所では、さる8月7日から16日までの間(11日、12日を除く)、同研究所4階大講演室において「数学入門公開講座」を開催した。

この公開講座は、社会人、中・高校教師、学生等ある程度数学的素養のある一般人を対象に、専門的題材をわかりやすく解説しようとするものであり、講座には大学生、大学院学生、教員、社会人、高校生等約130人が受講した。

なお、講義題目、講師は次のとおりである。

日本の洋算について 小松 醇郎
 (東京理科大学教授)
 円形の池に浮かぶ中の島の形について
 松浦 重武
 確率模型の話 伊藤 清
 (学習院大学教授)

素数の話

一松 信
 (数理解析研究所)

公開講座 高等学校教員のための現代数学展望

理学部数学教室では、数学教育にたずさわる高校教員に対する現代数学の発展についての講義を8月17日から25日まで、日曜日を除く8日間開催した。これは全国ではじめての試みであり、参加者は近畿一円から約70名で終始熱心に受講した。終了後、多くの参加者から今後この種の催しを続けてほしいという要望があった。

講義内容と講師は次のとおりである。

代数学の話 I 最近の代数学の展望 永田雅宜
 代数学の話 II 写像と演算の概念 岩井斉良
 幾何学の話 I 面積・体積と初等幾何学 戸田 宏
 幾何学の話 II 幾何学と変換群 吉沢尚明
 解析学の話 I 弦の振動と函数解析 池部晃生
 解析学の話 II 差分法の新しい位置づけ 山口昌哉
 (理学部)

<紹介>

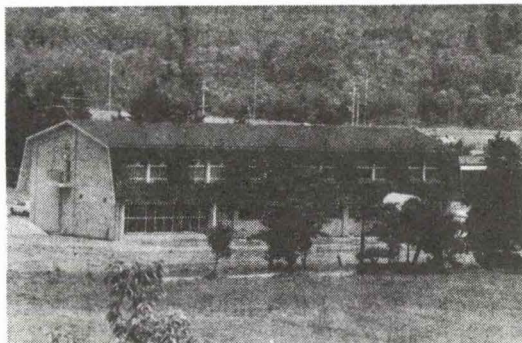
農学部附属牧場

農学部附属牧場は、京都府船井郡丹波町にある。丹波町は国道9号線を京都から福知山の方に向けて自動車で1時間程走ったところにあり、丹波町から綾部、舞鶴方面に向う国道27号線が分かれているが、この国道を2Km程進んだところの国道の両側に牧場の圃場が広がっている。面積約14haである。

牧場が官制化されたのは、昭和49年4月で、未だ5年しかたっていない。しかし、本学がこの土地と建物を利用しはじめたのは、それよりかなり以前からである。戦前、ここは海軍の演習場の一部であった。戦後、京都学芸大学(現京都教育大学)がここを農場として利用していたが、昭和28年に当時の本学農学部畜産学教室がその一部を借用して、共同利用をはじめた。昭和35年に京都学芸大学が農場を他に移転したのに伴い、土地、

建物はすべて本学に所属換えとなり、ここを農学部高原畜産試験地として畜産の教育・研究に使用するようになった。附属牧場はこれを母体として設置されたものである。

牧場は、学生に対して総合的な畜産技術を教育することを目的とした教育実習施設である。夏および秋には、学生はここに泊まりこんで「畜産技術論および実習」の授業をうける。この授業で



改築・新装なった牧場本館

料作物や牧草の栽培および利用、家畜の飼養管理、生産物の利用などの一貫した技術を実地に則して習得させるようにしている。なおこの牧場に繋養されている家畜は、肉用牛である和牛が主体で（現在約50頭）、その他にめん羊およびやぎが飼われている。このように家畜の種類がやや偏っているが、これは各種の家畜を飼うだけの面積の余裕がないこともあるが、いろいろの家畜の飼育技術を断片的に学ぶよりも、特定の家畜について土から生産物までの一貫した生産技術を徹底して学ぶ方が、教育的により有効であろうと考えられるからである。

一方牧場として独自の研究も行なっている。研究の対象も肉用牛に集中しており、主要テーマと

しては、「肉用牛の生産能力向上に関する総合的研究」をとりあげている。現在進行中の研究項目は、1) 肉用牛の粗飼料利用能力の遺伝的改良に関する研究、2) 肥育牛の産肉性と産肉生理に関する研究、3) 飼料資源の開発と利用に関する研究などである。

本牧場の建物は、第二次大戦中に造られた軍の兵舎を利用してきた。これらは利用しにくいため、老朽化してすでに危険にもなったので、昭和53年度に本館（管理室、研究室、宿泊施設を含む）および繁殖牛舎の改築が行なわれ、見違えるようになった。近くさらに肥育牛舎、中家畜舎、農機具庫なども改築される予定である。

（農 学 部）

計 報

石田 憲次（本学名誉教授・文学博士）

6月30日逝去、89歳。本学文科大学卒。昭和9年本学

文学部教授就任、同26年退官、その間評議員（昭和21年～23年）を併任。昭和43年勲二等瑞宝章受章。専門は英文学。

日 誌

（1979年6月1日～8月31日）

- | | | |
|------|--|---|
| 6月6日 | 中華人民共和国上海市学術交流友好訪問団団長（中国科学院学部委員、上海市科技協会主任、復旦大学長）蘇 步青氏外17名来学、総長および関係教官と懇談 | T.N.Madan 氏来学、関係教官と懇談 |
| 7日 | 中華人民共和国学術代表团（社会科学院）団長（中国社会科学院副院長）周 楊氏外9名来学、総長および関係教官と懇談 | 19日 環境保全委員会 |
| 9日 | 理学部 玉城嘉十郎教授記念公開学術講演会 | 20日 同和問題委員会 |
| 12日 | 評議会 | 〃 国際交流委員会 |
| 〃 | 大学院審議会 | 〃 創立記念日行事「講演会（国立遺伝学研究所 集団遺伝部長 木村資生氏）」 |
| 〃 | 建築委員会 | 22日 大学院審議会 |
| 〃 | 創立七十周年記念後援会助成金選考委員会 | 25日 安全委員会 |
| 13日 | 創立記念日行事「音楽会」 | 26日 評議会 |
| 〃 | アメリカ合衆国 Ramapo College 教務部副部長 J.Robert Cassidy 氏来学、教育学部関係教官と懇談 | 7月3日 電力委員会 |
| 14日 | 総長、職員組合と交渉 | 6日 フランス国 Bretagne Occidentale 大学教授 Jacques Néré 氏 人文科学研究所訪問、研究集会に参加 |
| 15日 | ウイルス研究所学術講演会 | 9日 附属図書館商議会 |
| 18日 | 創立82周年記念式 | 10日 評議会 |
| 〃 | 名誉教授懇談会 | 12日 総長、大学院生協議会と会見 |
| 〃 | インド国インド社会科学研究協議会事務局長 | 18日 国際交流委員会 |
| | | 30日 学位授与式 |
| | | 31日 総長、日韓両国間の学術、教育上の交流に関する意見交換および高等教育機関の実情視察のため、大韓民国を訪問（8月5日まで） |

-
- | | | | |
|------|--------------------------------|-----|---|
| 8月1日 | 農業簿記・農業経営講習会（8月6日まで） | 17日 | 理学部数学教室公開講座「高等学校教員のための現代数学展望」（8月25日まで） |
| 〃 | 人文科学研究所夏期公開講座（8月3日まで） | 26日 | 国際大学交流セミナー（9月7日まで） |
| 〃 | 東南アジア研究センター東南アジア・セミナー（8月16日まで） | 28日 | 中華人民共和国科学技術協会代表団団長（同協会書記処書記）王 文達氏外9名来学，総長および関係教官と懇談 |
| 7日 | 数理解析研究所数学入門公開講座（8月16日まで） | | |